中學校用

春堂習字帖

下

310
522

K220.72
74a
3

K220.72
74a
3

一　本書毛筆手本の部の輪廓は、從來の手本の形式とちがつて半紙一枚の輪廓を縮めうつしたものですから、その中の文字の位置は卽ち半紙面の字配であります。

一　ペン字手本の文字の大さは、習ふ場合の文字の大さを示してあります。そのつもりで夫々用紙を選定して下さい。

中學校用

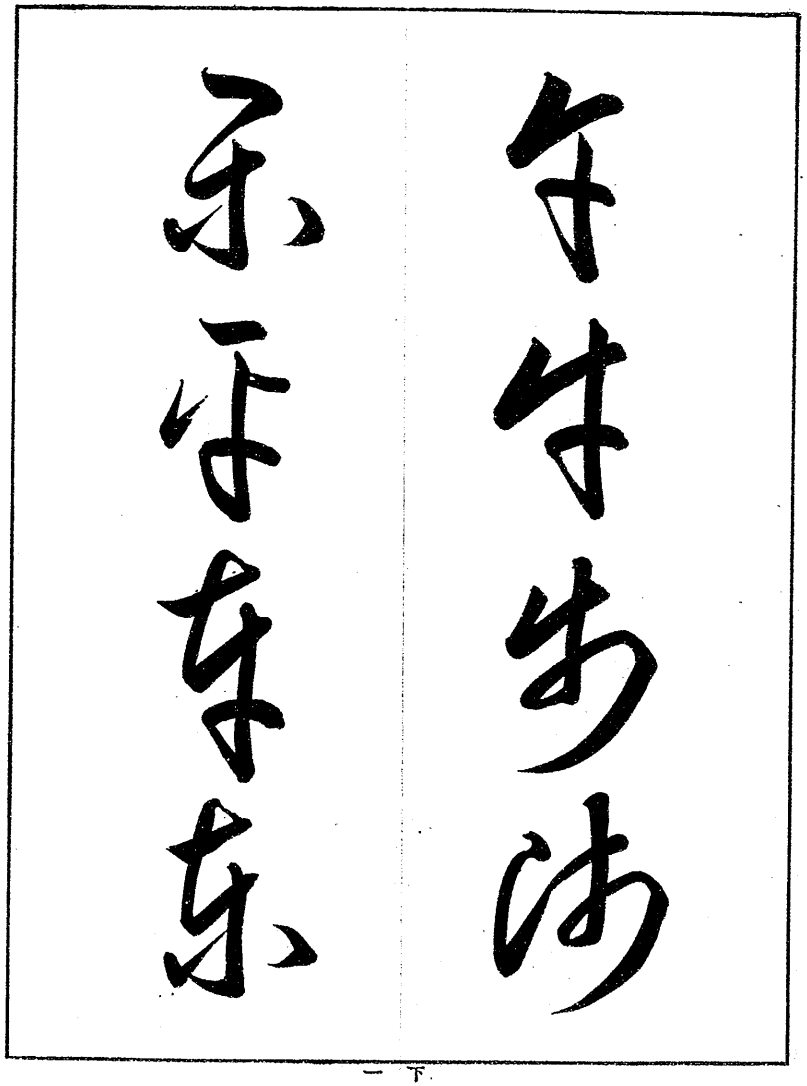
春堂習字帖

下

東京　合資會社　育英書院發行

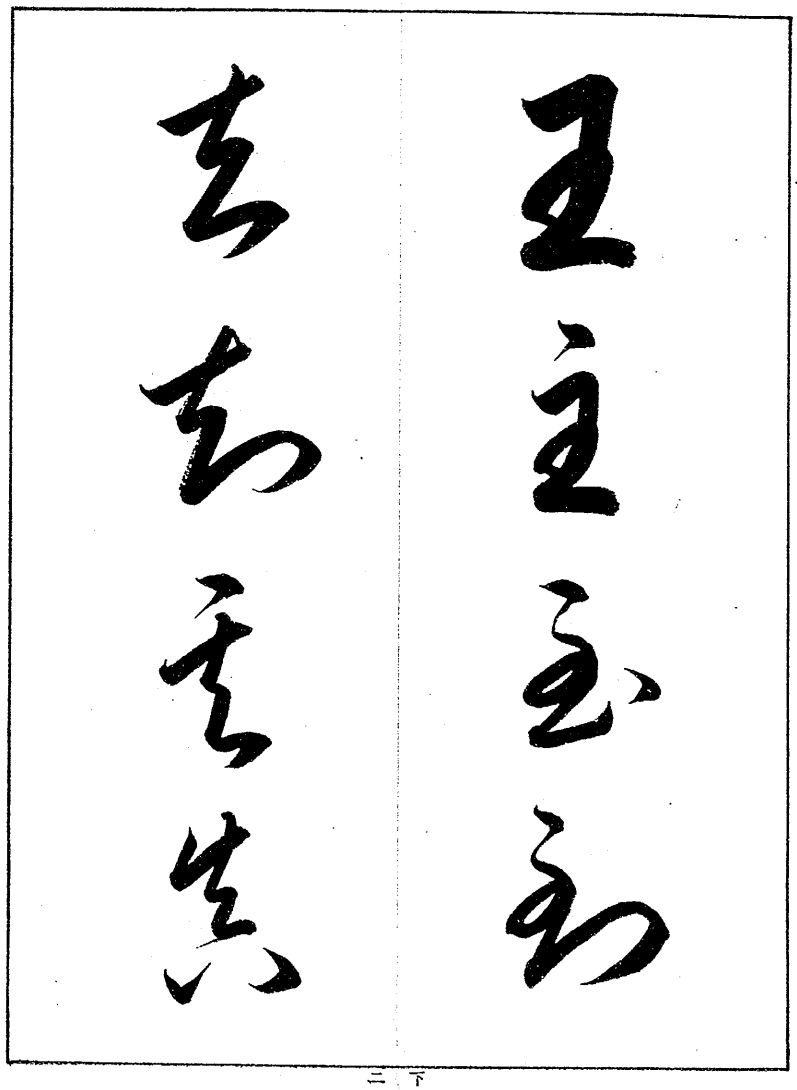
午牛步師

樂平車東



王主至到

去知其眞



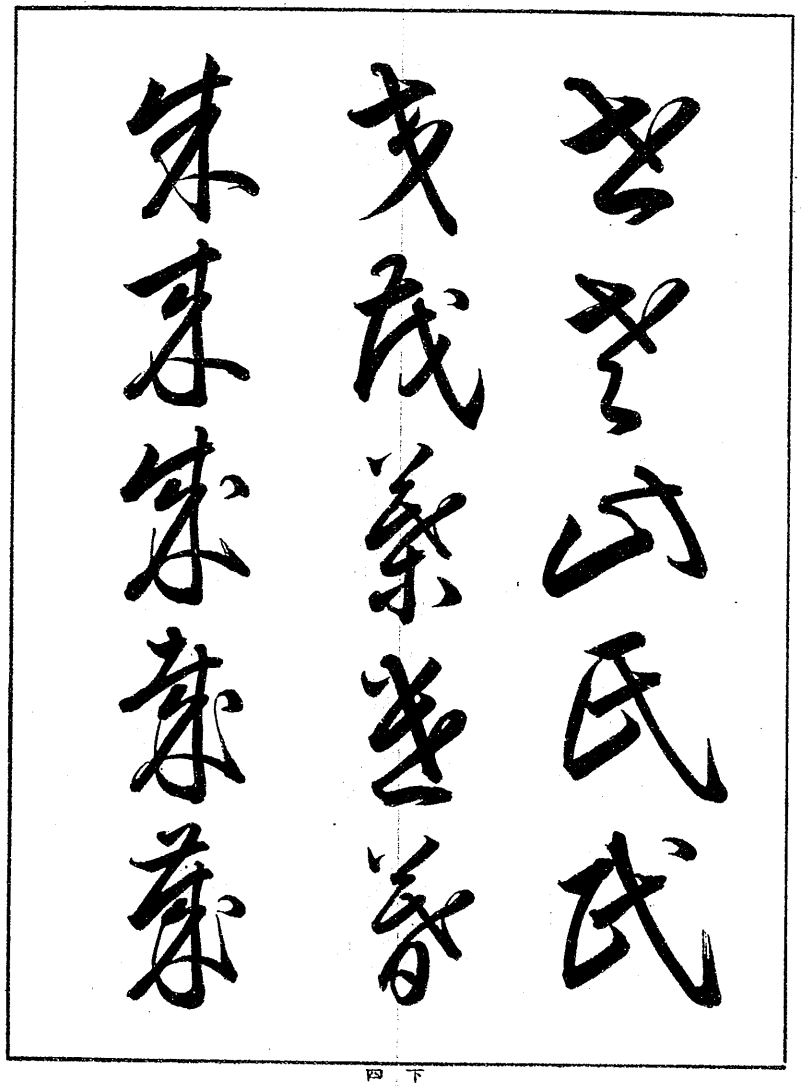
谷各水永

列別判制

世老此氏
民

交茂葉遺
暮

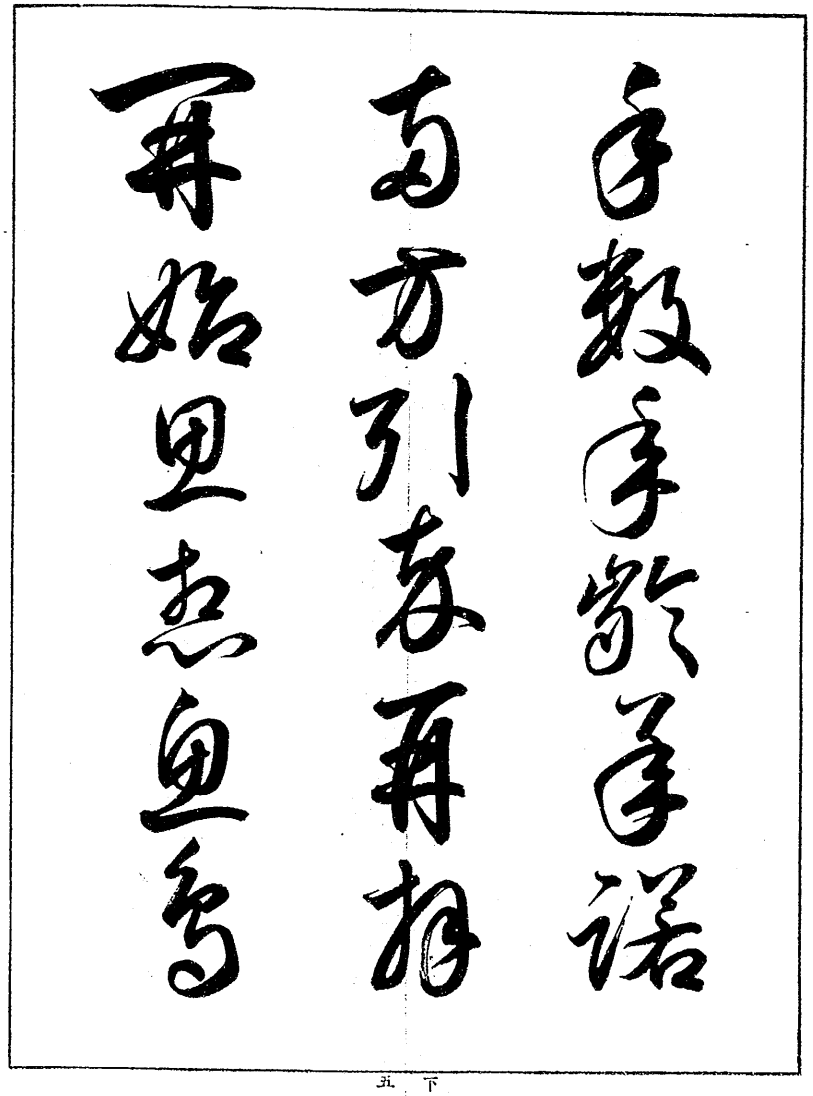
朱來成哉
蔵



手數年齡
承諾

兩方引卒
再拜

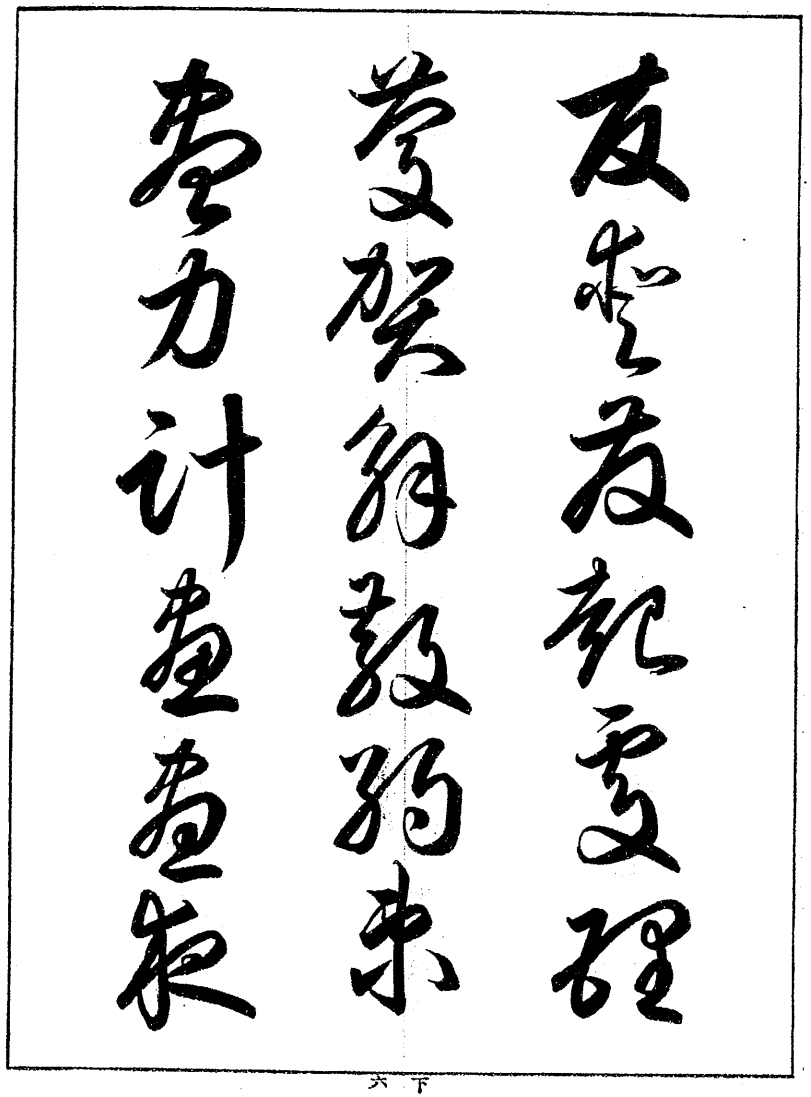
開始思想
魚鳥



友愛發起
處理

慶賀解散
約束

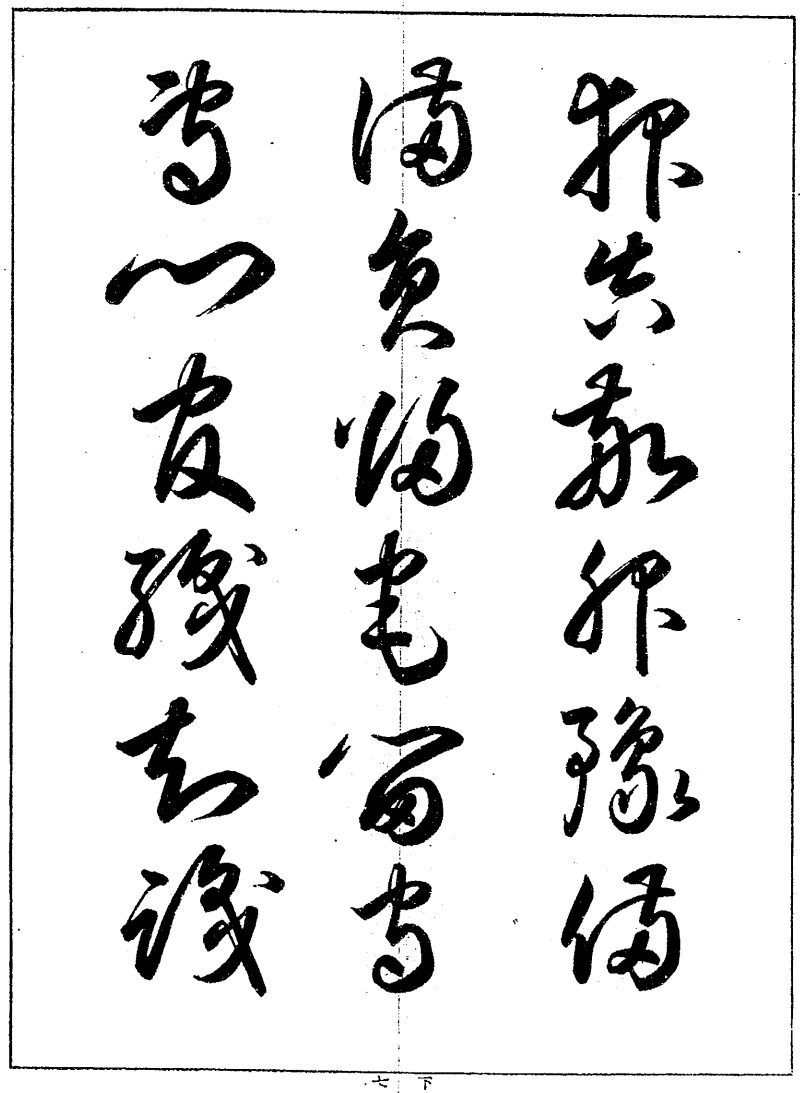
盡力計畫
晝夜



報告敬服
豫備

滿員歸宅
留守

專門官職
知識



健康建設
投票

周旋實施
連絡

到達觀念
勸誘

健康建設投票

周旋實施連絡

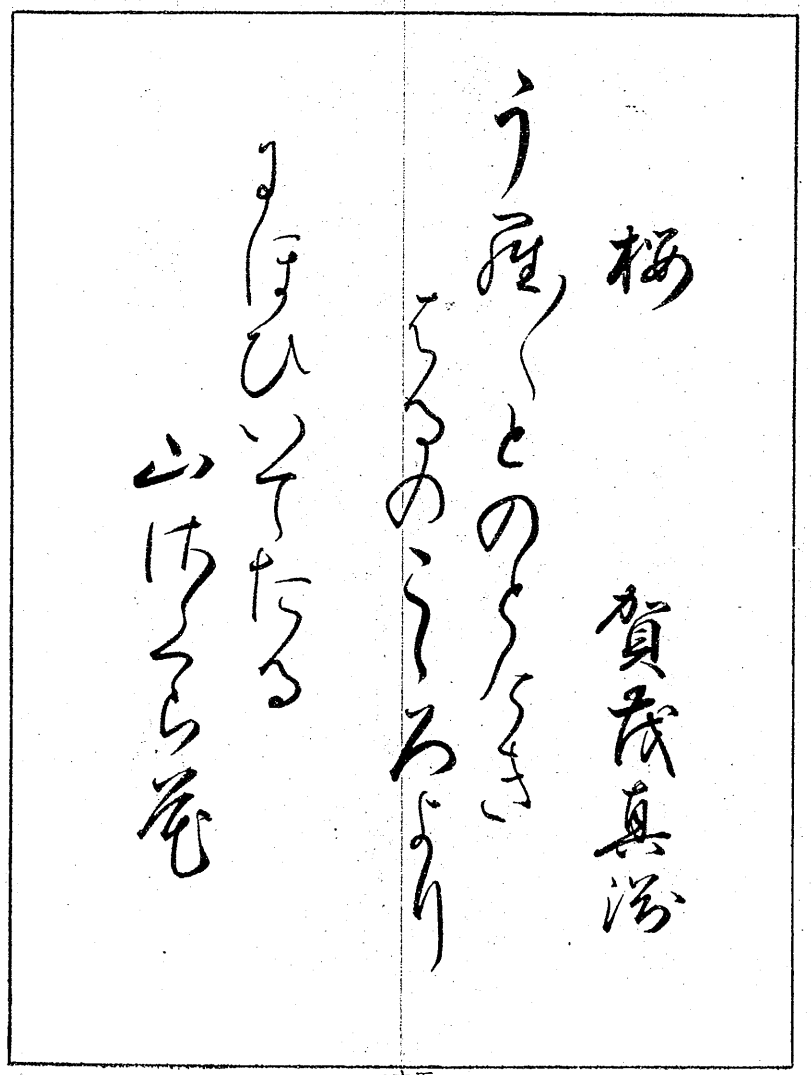
到達觀念勸誘

以誘其出又不屈於
右力量無城之守
生命之迷守捷門法
祿之能雖后羿無

京井乃孫代於く屋
まつ節今如志江て
行七休紀之逝允三
志直出屯之移志江

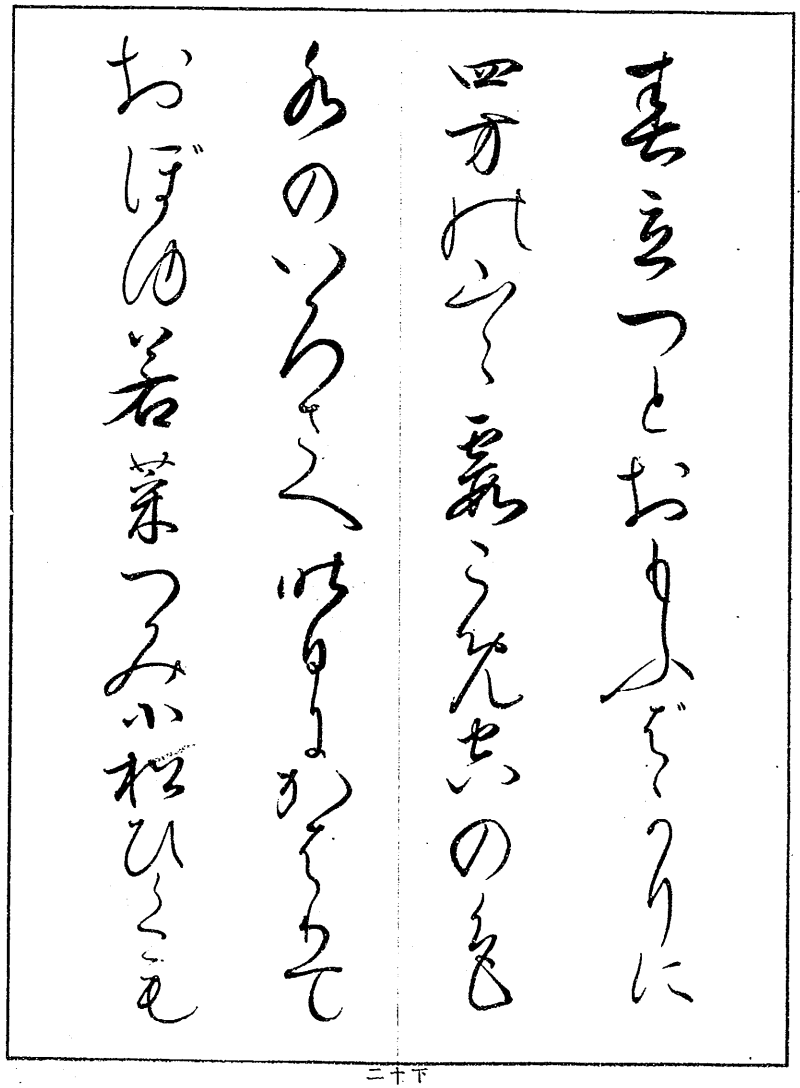
櫻　賀茂眞淵

うらゝとのどけきはるのこゝろより
にほひいでたる山ざくら花



霞こめ
空の色

昨日



桃の紅
花の音信
夢青葉

新しき手にさるとなり梅の花
ちりて雪花を嘗ばば柳の孫
桃の紅花の音信あるまでしく
夢、うとぐてうり青葉とそもぬ

我國の家族主義は家族に重きをおいて一族相扶けて家が栄える個人を軽んじて家族を重く存する

相倚り

繁榮

親は子に子は親に兄は
弟に弟は兄にと相倚り
相助けて家門の名誉を
繁榮さを希ふ

鋤田日當午
汗滴禾下土
誰知盤中
飧
粒々皆辛
苦

鋤田日當午汗
滴禾下土誰知
盤中飧粒々皆
辛苦

三年 祖
二宮金次郎

身體髮膚受之父母不敢毀傷孝之始也立身行道揚名於後世以顯父母孝之終也

身體髮膚受之父母不敢毀傷孝之始也立身行道揚名於後世以顯父母孝之終也

輓近學術益智ムモ縱ク佻風今テ革ハハ失コル
近開日然浮ノ萌詭亦時ニ習華レニケ學
術人進ト放漸輕ノスヒヲンヲ或ヲンヲ恐
ト墜前則メ時ニ亦詭萌ノ浮然日開近
ヲセ緒チス弊及生激シ習華レニケ學
恐ンヲ或ンヲヒスノ輕漸放ト進人術

輓近學術益智日進
浮華枝葉之習漸為
輕佻詭激之風亦生不及
七而革時弊易或失墜
易諸

月日　高山彦九郎

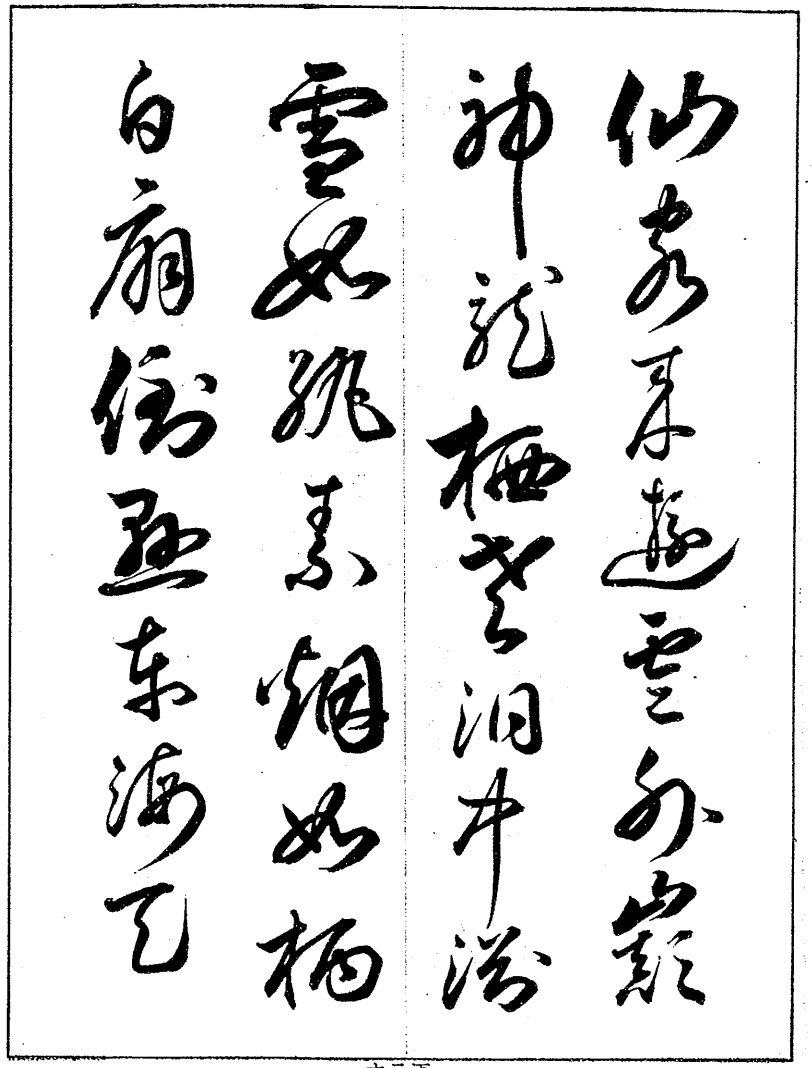
秋は夜面白く長八月おもしろし中の秋は五夜の月のふと見るゆゑ夕ぐれの空に出でたりて雜木の梢をうつしの垂葉なんどに風のすさぶ嘯くまづおもしろし

仙客來遊雲外巔

神龍栖老洞中淵

雪如執素烟如柄

白扇倒懸東海天



村田春海

いあてにたりて白雲の
ふもとにとまる

おりはあらしにたに
とまれて
不生れば

富貴不能淫貧賤不能移威武不能屈此之謂大丈夫

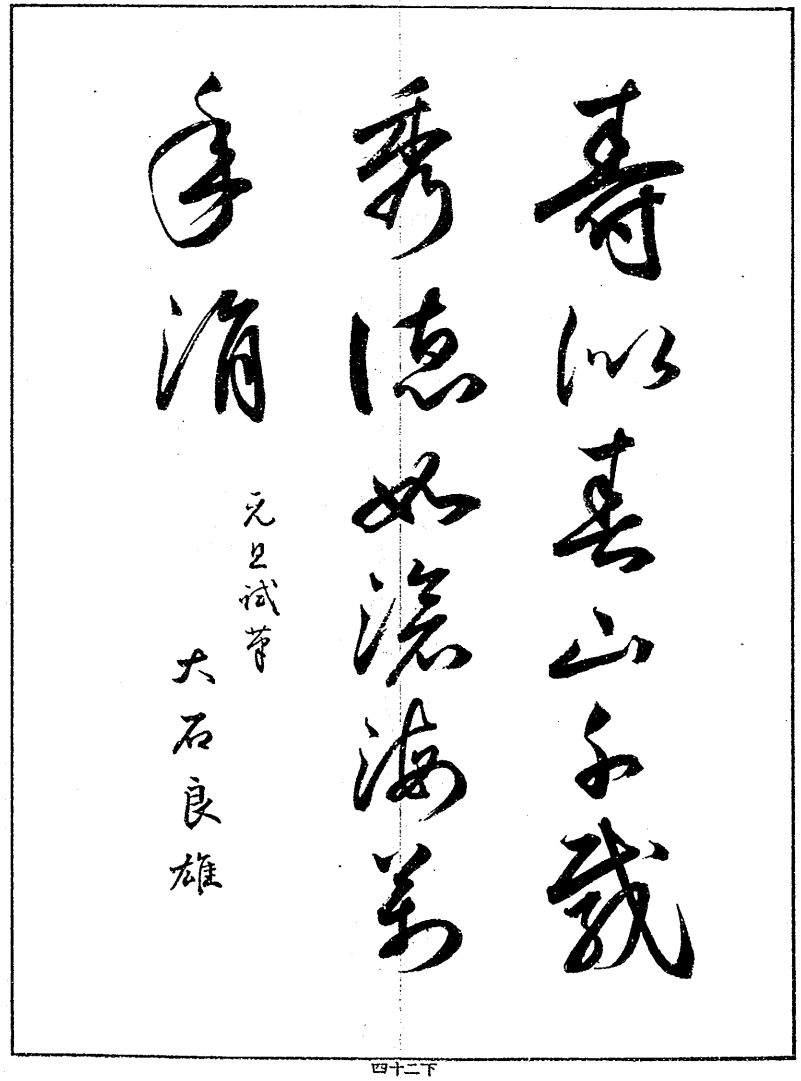
富貴不能淫
貧賤不能移威武
不能屈此之謂
大丈夫

月日
山田松壽書

雲耶山耶吳耶越耶
水天髣髴
青一髮
萬里泊舟
天草洋
煙横蓬窓
日漸沒
瞥見大魚
波間跳
太白當船
明似月

雲耶山耶吳耶越耶
髣髴青一髮萬里泊舟
天草洋煙横蓬窓日
漸沒瞥見大魚波間跳
太白當船明似月

壽似春山千載秀
德如滄海萬年涓



夜は川下の方へ流れて曙の光は四邊に滿ちてゐる。雞はなほ鳴きつゞけてゐる。空と水との薔薇色が少しうつろふ。忽ちきらきらとまばゆい光が水にうつる。振返つて見ると、朝日は杲々として今息栖の宮の森の梢を離れるのである。折柄その森の塀を離れた烏が一羽朝日を見うて、さながら曉を告げ渡る神使の如く、凛々たる朝の大氣に羽を搏つて小見川の方へ飛んで行く。小見川はまだ蒼々として朝霧の中に眠つてゐる。

對岸はまだ眠つて居るが、こちらの村は覺めた。くしろの小屋から煙が立ちとる。今柵を出た家鴨は、足跡を霜につけてくわつ〳〵と呼びながら朝日を碎いて水に飛びこむ。水楊の枝にいま鳥が囀る。今起きて来た村人が白い息を吹き〳〵川に下りて河水を掬んで口を嗽ぎ顏を洗ひ、それから遥に筑波の方に向いて掌を合せて拜んで居る。あゝ實に好い拜殿であると思つた。

毎夜浴衣右八月白のめく押合ひ海水浴は鯨魚の
ごとくにして押寄し山家は馬蠅ごとく海岸は
赤痢の怖ろしさ夜中はだつと蟄居して蚤も蚊も
ういまの消夏法は蚤ごとに蚤跡ごとお策
朝顔培養を一大事と称し朝夜くより此の跡あと
白ひ合ひて樂しくこの中八手づうら水をかけ地走し
暮際は夜涼を月見などとお手かけ長ばなるうく
自作して蚊の食ふ類を叩く嘯もなき程なれば
暑いとも言ふもとも考へ出来ず
右の言までこの

菊香會秋季例會

日時　十一月三日午後四時より

場所　麹町區有樂町菊香塾

會費　壹圓貳拾錢

以出席の有無前日までに菊香塾内
幹事宛まで御一報願ひます

拝啓　新年の御祝詞申上げます
たゞ今丁度東の海の空
大きな初日のあがるところです
まぶしいほど
このあたりの賀状を認め
一月元旦　ました

310
523

72297

中村春堂書

宮田六左衛門刻

大正十五年十月五日印刷
昭和二年一月六日訂正再版印刷
大正十五年十月十一日發行
昭和二年一月六日訂正再版發行

著者 中村梅太郎

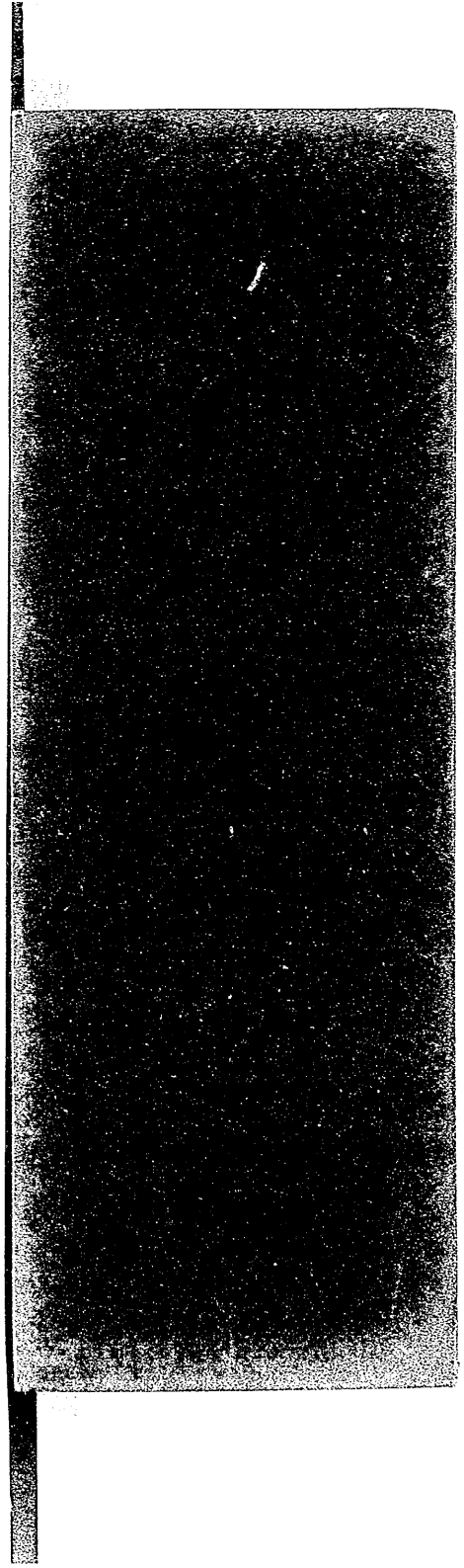
中學校用 春堂習字帖 全三冊
上、中、下卷 各金貳拾六錢
昭和二年一月六日訂正再版 上、中、下卷各金四拾四錢

著作權所有

發行兼印刷者 東京市牛込區白銀町廿九番地 合資會社 育英書院

代表者 倉田八十八

印刷所 東京市牛込區白銀町廿九番地 合資會社 育英書院

發行所 東京市牛込區白銀町廿九番地 振替口座(東京)七四二番

發賣所 東京市京橋區南傳馬町二丁目 振替口座(東京)二八〇九番 目黑書店